

認知症が疑われる際の主な行動の変化

❗ 出来ていたことが出来なくなる。
(トイレ・しつけていたことなど)



❗ 飼い主と認識できず、
唸る・噛むなど攻撃的になる。



❗ 夜鳴きと思われる発声。



❗ 日中寝て、夜活動的になる。
(昼夜逆転)

❗ 出入り口が認識できない。
よく知った道でも迷う。



❗ 刺激や呼びかけに反応しにくい、
又は過敏に反応するようになる。



❗ 目的なく徘徊や旋回をする、
または行動が減少する等。



❗ 異常なほどの食欲。
(食事後すぐに食べたがるなど)



❗ 今までしていたグルーミングを
あまりしなくなる。(猫の場合)



認知症の発病時期は
種類や大きさで変わる

大型犬



早いと6~7歳くらい~

小型犬



早いと12歳くらい~

猫

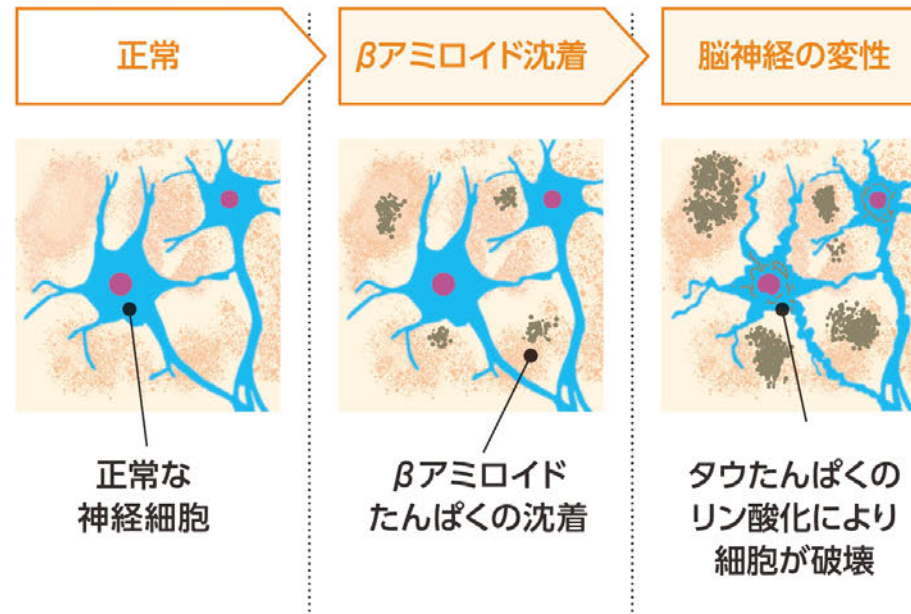


犬より遅い傾向
11~14歳くらい~

アルツハイマー型認知症

原因

まだはっきりと説明はされていませんが、脳に「 β アミロイド」というたんぱく質がたまり、さらに「タウたんぱく」が異常にリン酸化され、脳神経が変性することで起こる病態だと言われています。ただし、ヒトに起こる「神経原線維変化」は、イヌでは確認されていません。



治療

脳の神経細胞を活性化させたり、過剰な興奮を抑える薬、また新しく β アミロイドを取り除く効果のある薬が承認されています。

なりやすい犬種・猫種

柴犬(柴犬Mix)、紀州犬、甲斐犬、北海道犬などの日本犬に多く、洋犬の中ではヨークシャーテリアに多いと言われています。



柴犬



紀州犬



甲斐犬



北海道犬



ヨークシャー
テリア

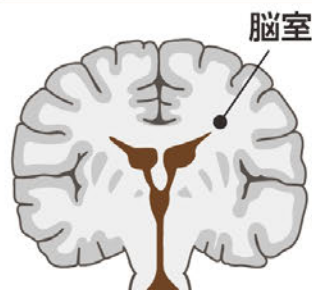
※こちらの資料は院内のみの使用にとどめ、外部への配布、アップロードを禁じます。

水頭症型認知症

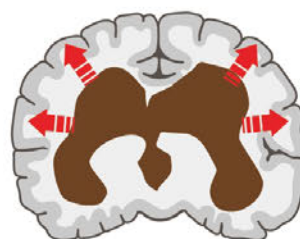
原因

頭蓋骨の中の脳室は、脳脊髄液で満たされています。何らかの原因によって、この脳脊髄液が増え、脳室が大きくなり、脳が圧迫されることで起こる病態です。

正常



水頭症



脳室が拡大、
脳実質を
圧迫している

先天性

脳奇形、尾側後頭骨奇形症候群
(後頭骨の形成異常による脳の変異) など

後天性

脳腫瘍、
猫伝染性腹膜炎 (FIP) など

治療

脳脊髄液の産生を抑え、排出を促すことで脳の圧迫を軽減します。

なりやすい
犬種・猫種
先天性



チワワ



トイ・プードル



マルチーズ



ヨークシャーテリア



パグ



ペキニーズ



ボストンテリア



ケアンテリア



ブルドッグ

※こちらの資料は院内のみの使用にとどめ、外部への配布、アップロードを禁じます。

機能性素材の例



獣医師様向け

血液凝固抑制作用、血液循環改善作用、神経伝達機能改善作用などにより認知機能改善作用の報告があります。

ジンセノサイドをはじめ多数の成分を含んでおり、神経細胞のアポトーシスや損傷を阻害し、神経細胞を守る働きが報告されています。

骨や性ホルモンの合成に必要な成分で、栄養素の代謝やSODの活性にも関与しています。

抗酸化、抗炎症作用があり、動脈硬化予防作用、血流改善効果、血栓合成抑制作用があります。

抗酸化、抗炎症作用があります。また排出機能促進による β アミロイド減少作用や、ラットの脳浮腫に対する効果の報告もあります。

素 材

イチョウ葉
エキス

発酵高麗人参
エキス

マンガン

ルチン

クルクミン



オーナー様向け

人・動物向けの脳機能サポートサプリメントに多く採用されている成分で、認知機能の維持に良いとされています。

漢方でも多く使われる素材で、多数の成分を含んでおり、抗酸化作用や神経保護作用など様々な働きが報告されています。

脳の水の巡りを調節する働きがあります。

脳神経の保護に役立ちます。

注意力や記憶力をサポートします。